

2024年度 第1回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 2024年5月21日(火)16時00分～19時30分
2. 場所 日本建築学会 306会議室, Zoom のハイブリッド
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 金尾伊織 (主査), 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季
田川浩, 中澤祥二, 松井良太, 城戸將江 (記録)
(敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

- 01-00 2024年度第1回鋼構造座屈小委員会議事 (金尾)
- 01_01_1 第4回座屈小委員会議事録 (城戸)
- 01_01_2 座屈小委員会グループ会議議事録 (金尾)
- 01_02 2024年度第1回鋼構造運営委員会議事録(案) (金尾)
- 01_03 英文化に関する刊行委員会からの回答 (金尾)
- 01_04_1 座屈指針イメージ案_第2章_松井_20240521 (松井)
- 01_04_1 指針案_第2章_圧縮材_20240521 (松井)
- 01_05_1 4章 梁材 目次案 (金尾)
- 01_05_2 梁材-案 (金尾)
- 01_06 鋼構造座屈設計指針第5章柱材目次案-2024-05-19 (城戸)
- 01_07 6章板要素_目次案_0521 (小橋)

5. 議事内容

資料01-01-1

- ・資料01-01に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された。

資料01-02

鋼構造運営委員会 (5/7) について, 金尾主査より報告がなされた。グループワーキングの活動報告をした。ブレース接合部は塑性設計指針, 接合部設計指針, 座屈設計指針ですり合わせが必要であるということであった。具体的な内容が決まってから合同委員会を開催する。

2024年AIJ大会若手優秀発表について, 1ブロック4名で審査するので複数回担当する方も出てくる可能性があるが協力をお願いしたいとのこと。

資料01-03

諸問題の英文化の刊行について, 刊行委員会から回答があった。SSRCのロゴを掲載する場所と, ネイティブチェック (ミスがあった場合の責任の所在) が懸念事項のようであった。倉田委員によるとSSRC側にはロゴは序文とすることを伝えている。ネイティブチェックについては, すでにSSRC側に依頼をしているが, 構造委員会査読で要求された場合は再度行うことになった。

電子書籍とし, 表紙等のデザインはAIJで決める。

プロモーションについては2025ASCカンファレンスにサマリーを出し発表する, 2026SSRCで, 3,4点の関連するペーパーを出す, ウェビナー開催などの案が提示されているとのこと。AIJのリンク (購入できるところ) も大事である。

日本語の諸問題と同様に免責事項の英訳を記載する。

刊行計画は, SSRC側からの戻りが2024/5/31, AIJ運営委員会査読依頼が7月, 対応終了が10月, 構造本委員会査読対応をできるだけ早く実施する。年度末の構造本委員会 (2月末, 3月) での承認が必須である。刊行企画書のたたき台を金尾主査が作成し倉田委員が確認する。

資料01-01-2

資料01-01-2に基づきグループ会議議事録について、金尾主査より説明がなされた。本文に記載する内容は、耐力（評価式）、変形性能（評価式）、エネルギー（評価式）、性能評価例、解析に必要な情報の作り方とする。

資料01-04-01, 01-04-02

資料01-04-01, 01-04-02に基づき、松井委員より圧縮材の目次案および指針の内容について説明がなされた。

- ・表2.6.1は表ではなく、現行指針との関係を示す内容に表現を変更する。
- ・接線係数荷重など一般的な書籍にも掲載されているが、そのまま掲載するのか？設計に関与するところのみを残す方針とする。
- ・偏心補剛材については、今後どのように掲載するか検討する。
- ・圧縮材についてはデータベースは不要である。ブレースに掲載する。
倉田委員よりブレースについて説明がなされた。
- ・材端拘束の内容が、耐力、変形性能、履歴モデルのところでも繰り返して出てくるためどのようにするか検討中である。
- ・塑性設計指針、接合部設計指針との話し合いの内容については、倉田委員、松井委員と話をしてみる。
- ・性能評価例としては、履歴モデルは3章とし、骨組の章で時刻歴応答解析を示す。
- ・骨組の章は、評価式として示す内容がなく現象に関する記述がメインとなる。

資料01-05-1, 01-05-2

資料01-05-01, 01-05-02に基づき、金尾主査より梁材の目次案および指針の内容について説明がなされた。

- ・履歴特性の作り方を掲載する。
- ・エネルギーの設計における使い方について議論がなされた。

資料01-06

資料01-06に基づき、城戸より柱材の目次案について説明がなされた。

- ・指針の内容については、座屈崩壊型鋼構造部材の性能評価WGにおいて倉田委員が作成していた指針案が、現在の方針に合致しているところが多いので、それをベースに指針案を考えていきたいと考えている。
- ・表5.1.1, 表5.1.2については圧縮材、梁材のところと合わせて表現を変える。
- ・一般的な柱材の性能評価は座屈設計指針では不要。
- ・柱の履歴モデルは耐力の余裕度を調べるときに必要となる。

資料01-07

資料01-07に基づき、小橋委員より板材の目次案について説明がなされた。

- ・柱梁接合部の耐力は本文で分かるようにして、せん断座屈するパネルの挙動は解説に書くようにする。

そのほか

諸問題に掲載されている内容以外でも必要に応じて指針に掲載する。

刊行は2027年を目標とする。

次回委員会に向けて

- ・本日の議論を踏まえて、少しずつ指針執筆を進めていく。

6. 次回小委員会予定

日時：2024年9月前半で日程調整する。

場所：対面あるいはハイブリッド